



日本触媒

株式会社日本触媒 個人投資家様向け説明会

2024/1/12

コーポレート・コミュニケーション部 西川

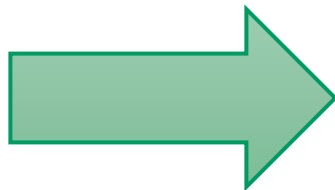
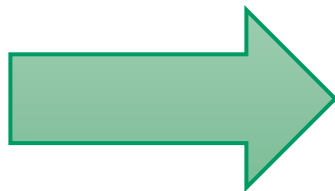
目次

1. 実はすごい化学！
2. 会社概要
3. 主力製品 高吸水性樹脂
4. これからの日本触媒
成長戦略・新規事業への取り組み
5. 業績概要
6. 株主還元・株式分割

50年前



現在



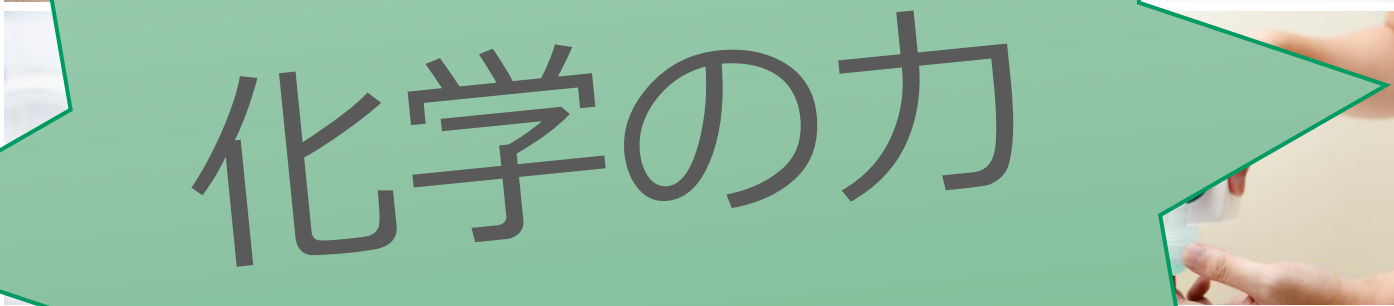
50年前



現在



化学の力



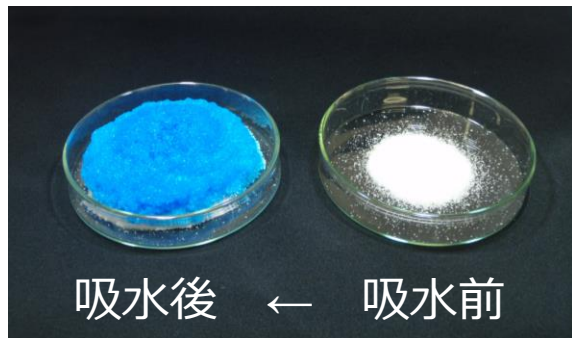


紙おむつは、高吸水性樹脂のおかげで急速に普及。

高吸水性樹脂は、吸水性、保水性に優れ、たった1gの樹脂でおよそ100～1,000gもの水を吸い取ることが可能。

日本触媒は高吸水性樹脂の
世界トップメーカー。

世界の紙おむつの約1/4が日本触媒の製品を使用していることになる。（当社調べ）





自動車塗料
(アクリル酸特殊エステル、
メタクリル酸特殊エステル)



**コンクリート
混和剤用ポリマー**
(アクアロック®)



台所用洗剤
(ソフタノール®、
エタノールアミン)



**フラットパネル
ディスプレイ**
(アクリキュアー®、
アクリビュア®)



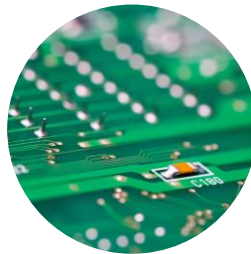
ゴルフボール
(アクリル酸金属塩)



粘着剤
(アクリル酸エステル)



自動車触媒



プリント配線基板
(シーホスター®)



塗料
(アクリル酸エステル)



ペット樹脂
(エチレングリコール)

会社概要

創業

1941年8月

資本金

250億円

2023年3月期末時点

従業員数

4,574名

2023年3月期末時点

グループ会社数

45社

2023年3月期末時点

売上収益

4,196億円

2023年3月期

**海外売上
収益比率**

56.6%

2023年3月期

時価総額

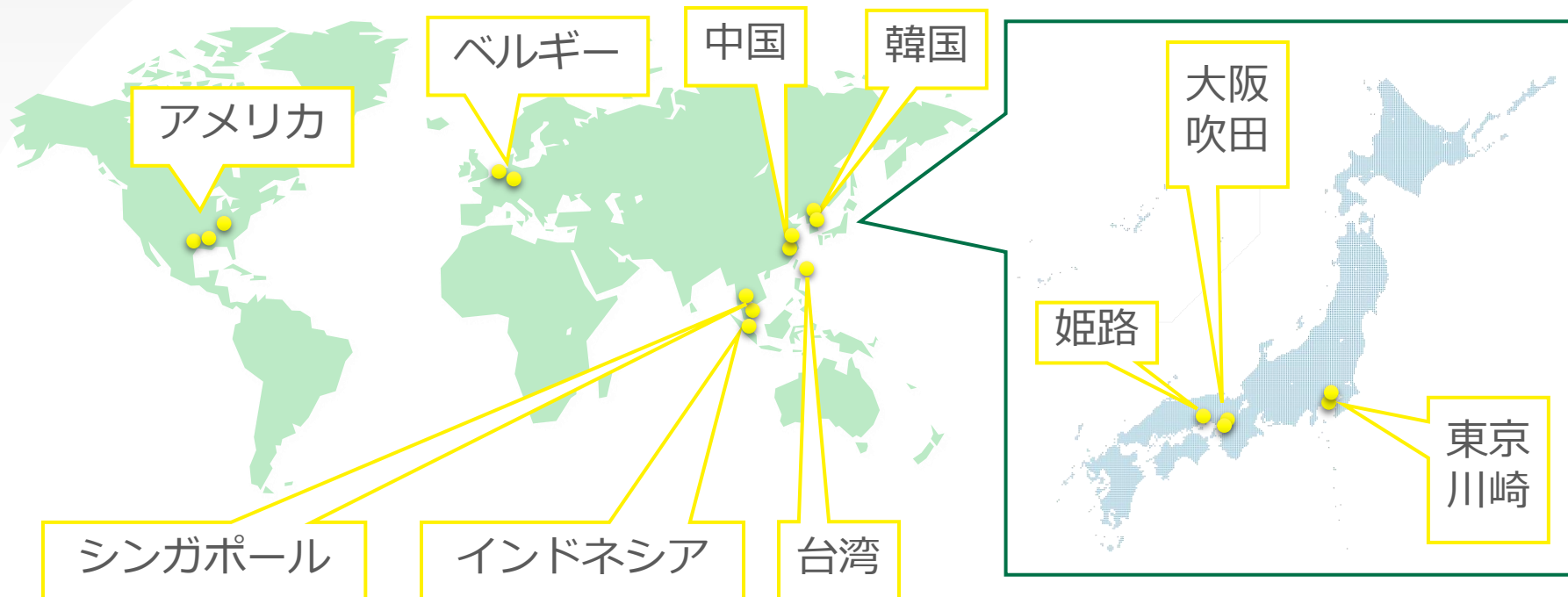
2,028億円

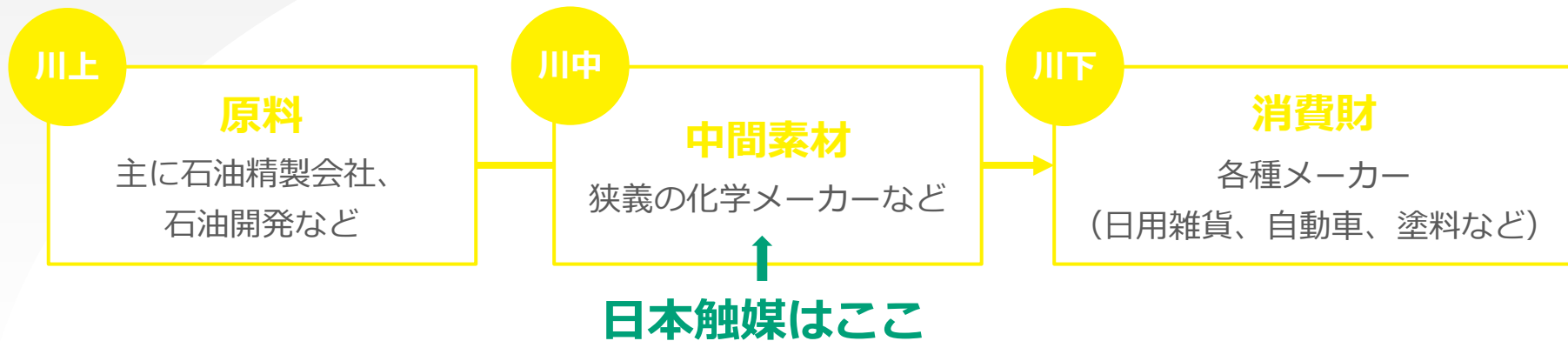
2023年12月12日時点



代表取締役社長
野田 和宏

事業所





<例> アクリル酸



プロピレン



アクリル酸



塗料、粘着剤

川上

原料

主に石油精製会社、
石油開発など

川中

ここで触媒！

触媒とは、化学反応を効率良く、
低コスト・低エネルギーで進ませる
働きを持つ物質。

社名「日本触媒」には、触媒を自ら
開発し、その性能を磨き上げてゆく
ことで発展しようとの想いが
込められている。

<例> アクリル酸



プロピレン



アクリル酸



塗料、粘着剤

日本触媒グループ企業理念

TechnoAmenity

私たちはテクノロジーをもって
人と社会に豊かさと快適さを提供します

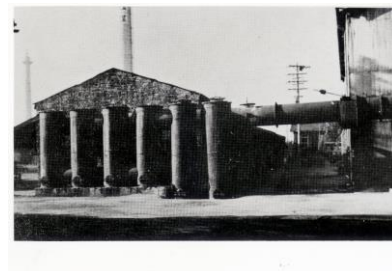


1941

日本初

無水フタル酸の工業化に成功

日本で初めて無水フタル酸の工業化に成功。
塩化ビニル工業の発展に貢献した。



1959

日本初

酸化エチレンの工業化に成功

日本初の純国産技術による酸化エチレンの工業化に成功し、日本の石油化学工業の発展に貢献。



1970

世界初

アクリル酸の新製法を開発

低コストかつ大規模でのアクリル酸製造が可能に。
世界のアクリル酸メーカーで製法が採用される。

1985

高吸水性樹脂の大規模生産に成功

技術・生産ともに世界をリードし、人々の生活の質向上に貢献している。



2006

世界初

アクリビュア®の商業生産を実現

光学フィルム用アクリル樹脂「アクリビュア®」を企業化し、液晶ディスプレイの高性能化に貢献。



2013

世界初

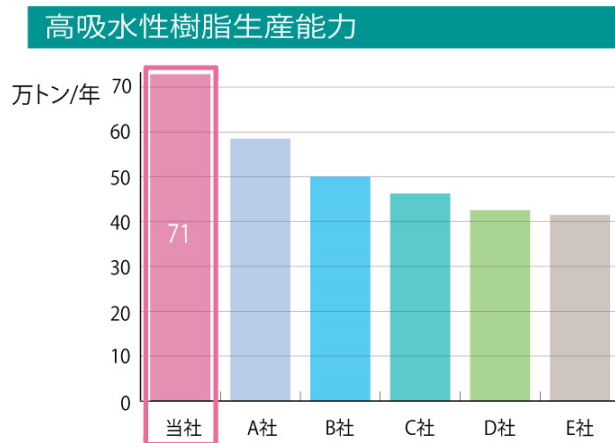
イオネル®の工業生産プロセスを確立

「イオネル®」はリチウムイオン電池の電解質として使われ、次世代電池への貢献が期待されている。

主力製品 高吸水性樹脂

世界をリードする生産能力

- ・ 世界**1位**※（71万トン/年）
- ・ 世界の紙おむつの約**1/4**に
日本触媒の製品が使用されている



※当社調べ

拡大する市場

- ・ 新興国で赤ちゃん向け紙おむつの
需要増加
- ・ 先進国では大人向け紙おむつの
需要増加
- ・ 年率3-5%で市場拡大

①研究開発力の高さ

②原料からの一貫生産

③グローバルな生産体制

研究開発の迅速化

- ・ データサイエンスを駆使し、
開発期間を従来の約半分に短縮

速乾性が重視される
アクティブシニア向け
尿漏れパッドに



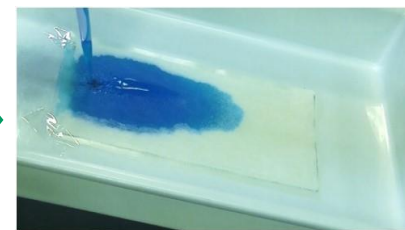
高吸水性樹脂の高付加価値化

- ・ 速乾性に優れる高吸水性樹脂
- ・ 吸収量や吸収速度などを従来比
10%以上高めた高吸水性樹脂

赤ちゃん向け
紙おむつに



従来品

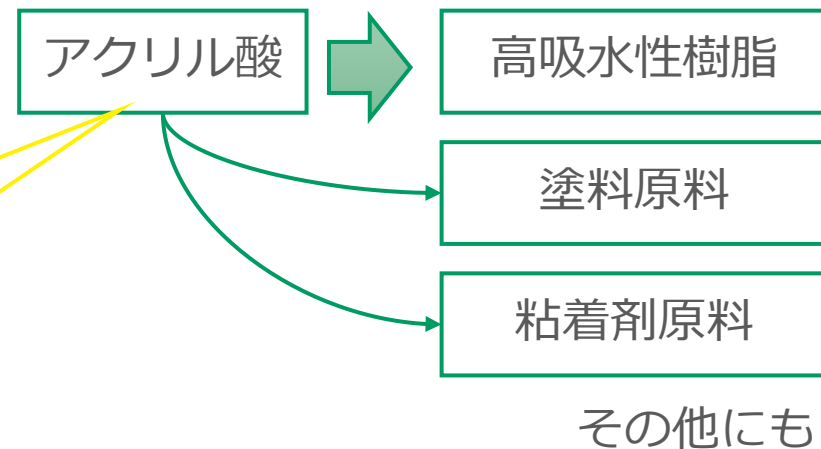


新規開発品

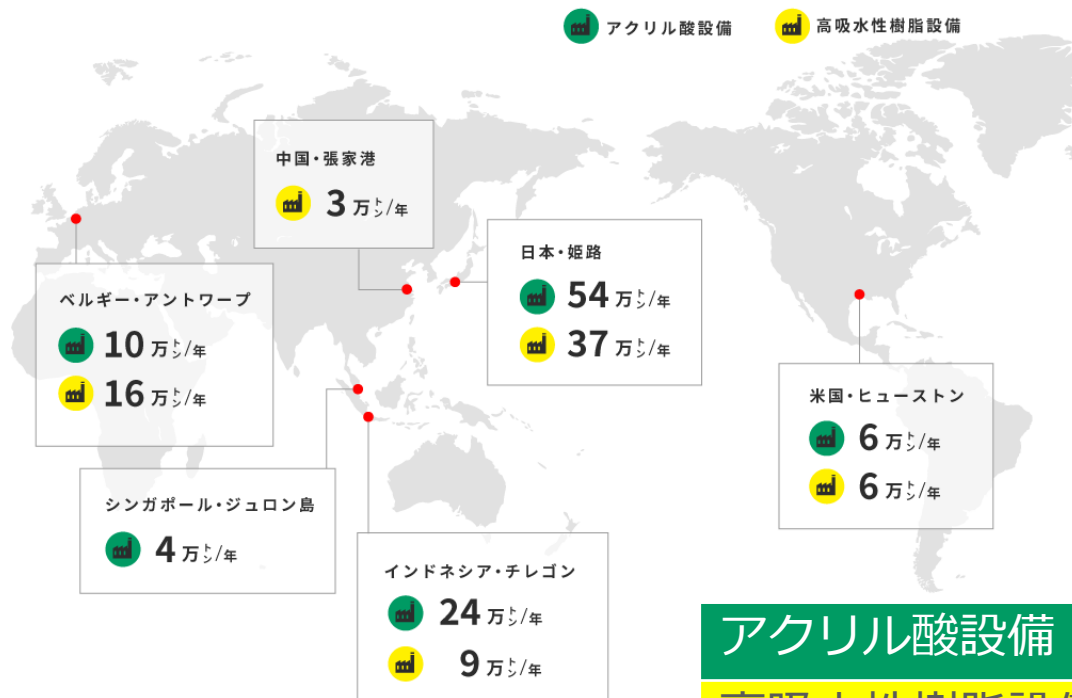
- 原料であるアクリル酸からの一貫生産により安定供給・低コスト化を実現
- アクリル酸生産能力（98万トン/年）
国内1位※、世界3位※ ※当社調べ
- 高吸水性樹脂以外にも利用、アクリル酸自体も販売



姫路製造所
アクリル酸プラント



グローバルな生産体制を構築し、世界規模での安定供給を実現

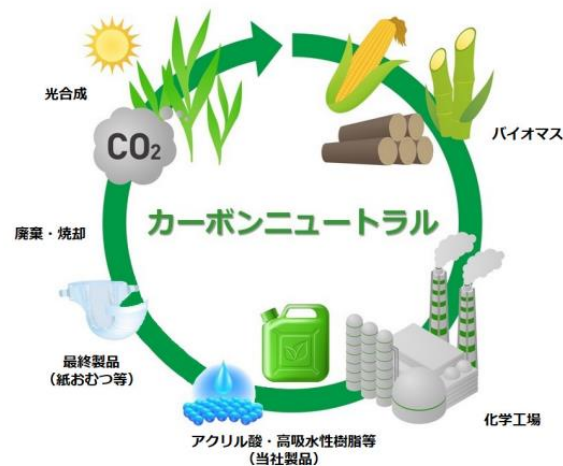


アクリル酸設備

98万トン /年

高吸水性樹脂設備

71万トン /年



バイオマス由来高吸水性樹脂

バイオマス由来原料を使用した高吸水性樹脂の生産について、ヨーロッパの製造拠点および姫路製造所において国際持続可能性カーボン認証（ISCC PLUS※）を取得

※ISCC（International Sustainability and Carbon Certification）：
国際持続可能性カーボン認証機関

バイオ由来アクリル酸

量産技術開発を行い、2030年までに商業生産開始を目指す

紙おむつリサイクル

使用済み紙おむつから高吸水性樹脂を取り出し、
新品同様にリサイクルする技術開発

これからの日本触媒 成長戦略・新規事業への取り組み

2030年の目指す姿を描いた長期ビジョンを策定

社会トレンド

- ・人口増加・高齢化・新興国経済の発展
- ・ニーズ多様化・デジタル技術発達 等

社会課題

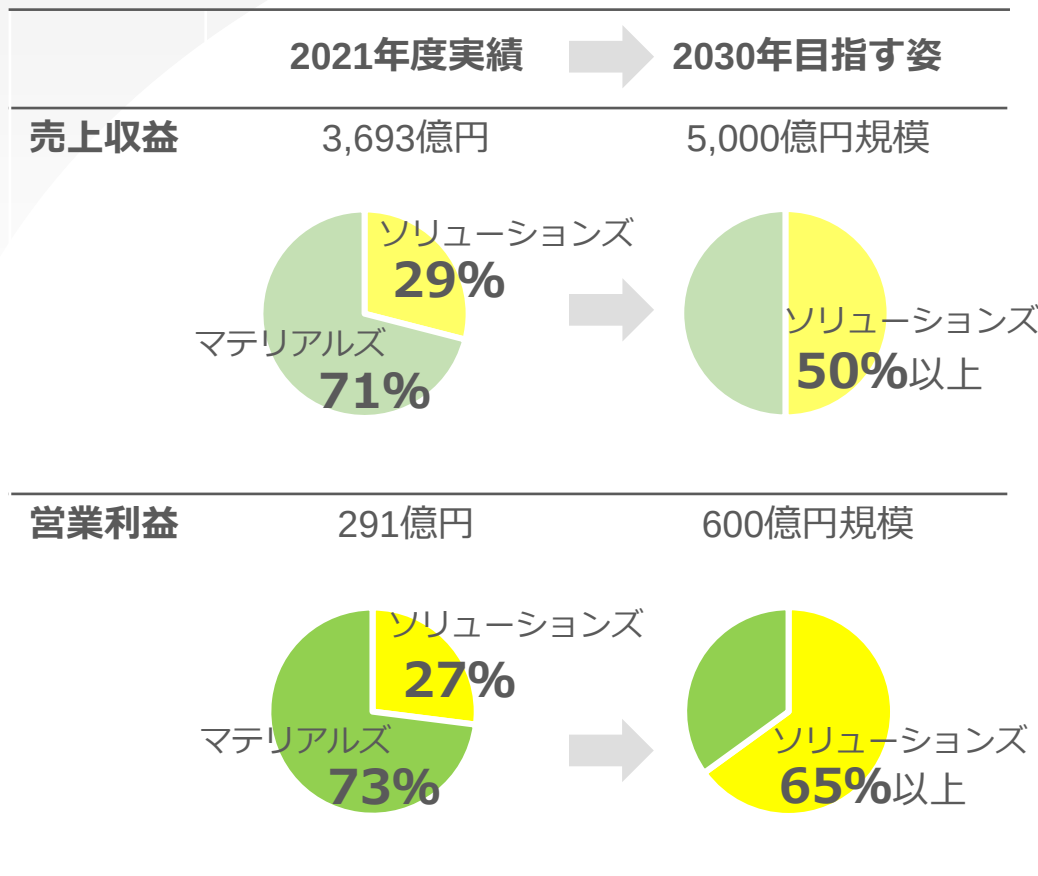
- ・安全安心・健康寿命の実現・気候変動問題への対応
- ・技術発達を支える新素材 等

2030年 長期ビジョン

TechnoAmenity *for the future*

〈2030年の目指す姿〉

- 人と社会から必要とされる素材・ソリューションを提供
- 社会の変化を見極め、進化し続ける化学会社
- 社内外の様々なステークホルダーとともに成長



マテリアルズ事業

世界中で利用されている化学品を、国内外の拠点で高品質かつ大規模に生産し、グローバルに安定的に提供。

方針：収益力強化、サステナビリティ推進による付加価値向上

アクリル酸、高吸水性樹脂、酸化エチレン、他

ソリューションズ事業

多様な産業の顧客ニーズに応えるため、研究・開発力を活かして高付加価値の独自の機能を提供。

方針：提案力強化、注目市場へのリソース集中

環境・エネルギー、エレクトロニクス・イメージング、ライフサイエンス、他

リチウムイオン電池市場

- 電気自動車（EV）向け市場が急拡大
- EV用リチウムイオン電池は長寿命化、過酷な気温条件への対応等、さらなる高性能化が要求される



イオネル®の特長

リチウムイオン電池の電解質として使用することで、リチウムイオン電池の性能向上に貢献

- 長寿命化
- より幅広い温度帯への適応

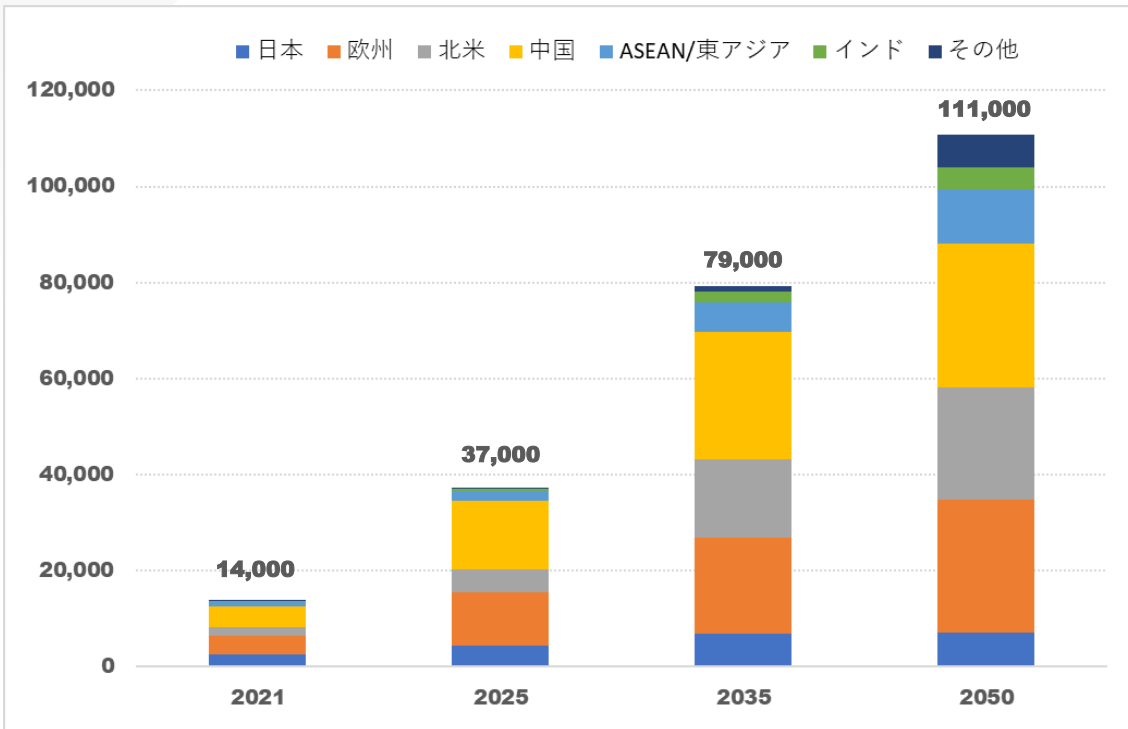


高純度LiFSI

「イオネル®」

リチウムイオン電池市場

■ 電動自動車生産におけるエリア別市場推移



出典元 株式会社経済「エネルギー・大型二次電池・材料の将来展望2022-電動自動車・車載電池分野編-」より当社作成

当社のイオネル®事業

消費地での生産を基本戦略とする

中国：LiFSI製造会社に出資

世界第2位のリチウムイオン電池用
電解液メーカーCAPCHEMの
子会社に出資

- ・ 安定大口顧客を獲得
- ・ 世界最大需要地である中国において生産体制を早期に構築

米国・日本

2027-2028年頃の設備稼働を
目標に検討を加速

市場環境

中分子医薬品である核酸医薬品やペプチド医薬品は、次世代医薬品として期待されている。将来的に高い市場成長率が見込まれている。



日本触媒の強みと取り組み

- 中分子医薬品には高度な合成・分析技術が必要
⇒日本触媒の技術と経験が活かせる
- 国内有数の中分子原薬合成施設建設
2020年 医薬品製造基準を満たす体制を整え、出荷開始
2021年 国内外の製薬会社にも本格的な営業活動を開始
- 創薬ベンチャーとの積極的な提携

水素

酸素と結びつけることでエネルギーを生む
化石燃料とは異なり、CO₂を排出しない

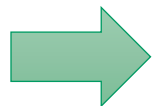
水素のつくり方

- ①化石燃料を燃焼させてガスにし、
その中から水素を取り出す
- ②再生可能エネルギーなどを使って
水の電気分解で水素をつくる

グレー水素

ブルー水素

グリーン水素

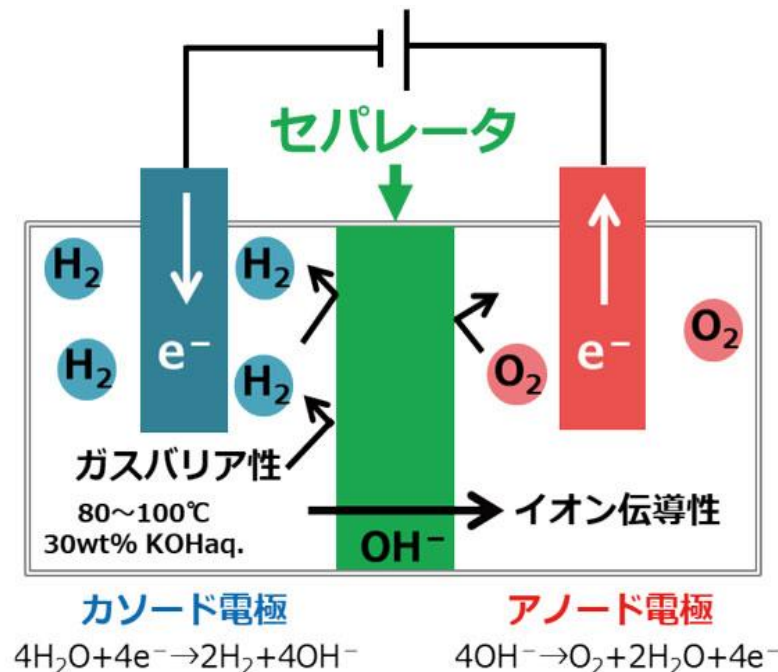


グリーン水素製造に必要な素材、アルカリ水電解用セパレータを開発！

アルカリ水電解用セパレータ

- 水の電気分解での水素製造に欠かせない部材「セパレータ」
- このセパレータを日本触媒が高性能化し、水素製造効率が大きく向上
- グリーン水素の普及とCO₂排出削減に貢献
- 2022年、高圧方式に適した大型アルカリ水電解装置及びセパレータの開発事業がNEDO*事業として採択

*国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

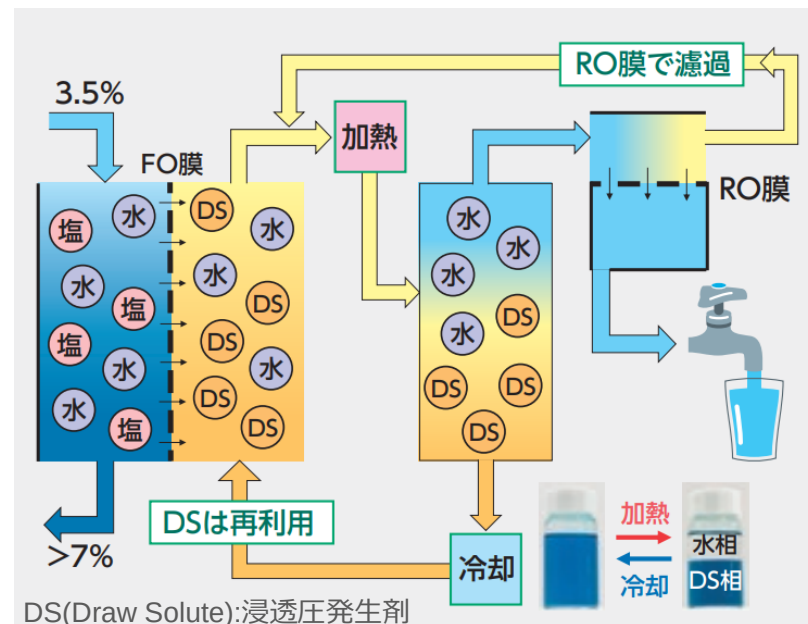


海水淡水化

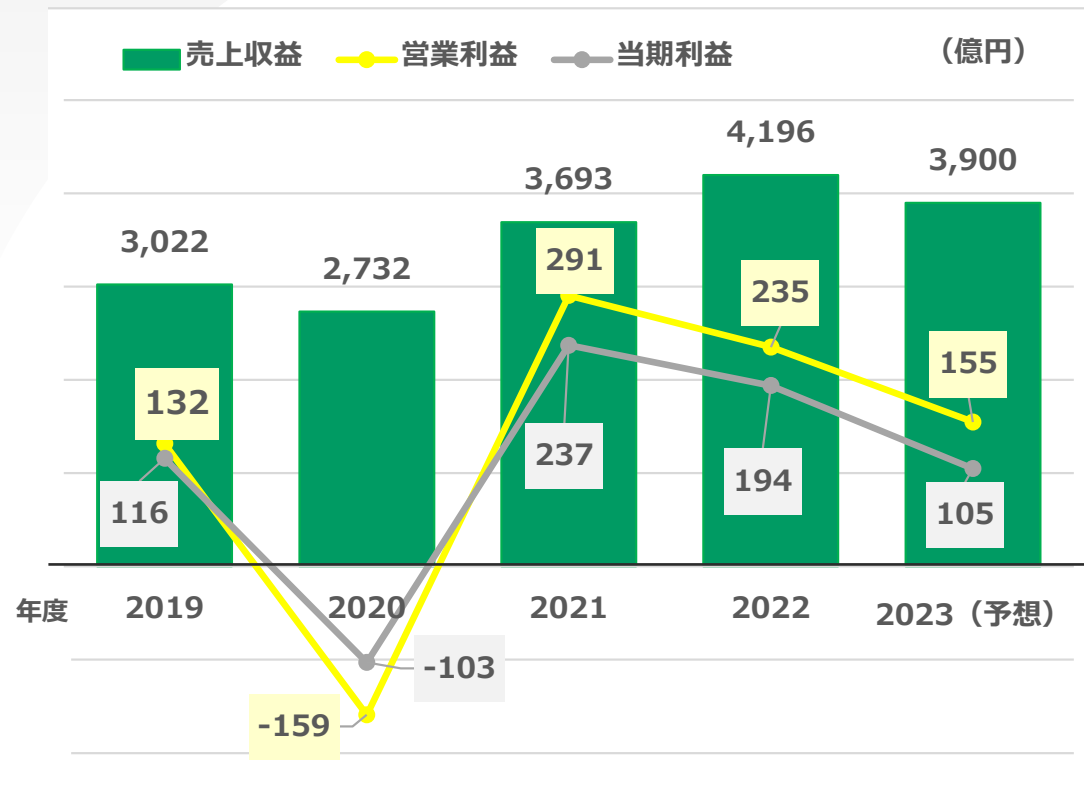
水不足が深刻な地域では海水を淡水に処理して農業用水や飲料水などに利用
既存の海水淡水化の方法である逆浸透(RO)システムは大量の電力を消費する

日本触媒の「浸透圧発生剤」は
次世代の海水淡水化技術である
正浸透(FO)システムの主要部材

➡ 環境負荷が小さく、低コストで
効率よく海水淡水化を実現



業績概要



2023年度
(2023年11月予想値)

売上収益 **3,900**億円

営業利益 **155**億円

親会社の所有者に
帰属する
当期利益 **105**億円

株主還元・株式分割

株主還元の基本方針として、総還元性向50%を目指す
 当期の年間配当を180円とした場合の配当性向は約67%となる予定
 また、自己株式を40億円取得した結果、総還元性向は104.5%となる見通し

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 (予想)
一株当たり年間配当額 (円)	180	90	180	180	180
一株当たり当期純利益 (円)	278.21	▲ 273.33	594.86	488.29	268.91
配当性向 (%)	64.7	-	30.3	36.9	66.9
配当額 (億円)	72	36	72	71	70
自己株式取得額 (億円)	0	0	0	30	40
総還元額 (億円)	72	36	72	101	110
当期純利益 (億円)	111	▲ 109	237	194	105
総還元性向 (%)	64.7	-	30.3	52.2	104.5

株式分割による投資単位の引き下げについて

株式分割の目的：

投資単位当たりの金額を引き下げることにより、より投資しやすい環境を整え、当社株式の流動性の向上および投資家層の拡大を図る

例

2024年3月31日まで

5,200円/1株
最小投資単位

52万円

1対4の割合
で分割

2024年4月1日より

1,300円/1株
最小投資単位

13万円

株式分割の概要

分割の方法	2024年3月31日（日）（同日は株主名簿管理人の休業日につき、実質的には2024年3月29日（金））を基準日として、同日最終の株主名簿に記載または記録された株主の所有する当社普通株式を、1株につき4株の割合をもって分割いたします。	
分割により増加する株式数	① 株式分割前の発行済株式総数 ② 今回の分割により増加する株式数 ③ 株式分割後の発行済株式総数 ④ 株式分割後の発行可能株式総数	39,000,000 株 117,000,000 株 156,000,000 株 508,800,000 株
分割の日程	① 基準日公告日 ② 基準日 ③ 効力発生日	2024年3月15日（金） 2024年3月31日（日） 2024年4月1日（月）

1. 高吸水性樹脂で世界トップシェア
2. 電気自動車向け電池材料など成長分野の事業に注力
3. 化学の力で社会課題を解決するソリューションズ事業を強化



提案する化学。

化学の可能性は常に無限。
私たちは化学の力で不可能の壁を超え、
かつてないソリューションをお届けします。

日本触媒 

本資料は、投資判断の参考となる情報提供を目的としているものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。また、記載されている内容は、資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した内容を含んでおり、記載された内容を確認したり、保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、異なる結果となる場合があります。

お問合せ先：

株式会社日本触媒 コーポレート・コミュニケーション部

東京都千代田区内幸町1-2-2 日比谷ダイビル

TEL： 03-3506-7605

URL： <https://www.shokubai.co.jp>